あおもり民医連

2018年9月15日発行
【8面オールカラー】発行部数2,794部
第277号

発行元／青森県民主医療機関連合会
所在地／〒030-0822 青森市中央三丁目10番2号
TEL. 017（723）4076　FAX. 017（773）5326
URL http://aomin.jp/　e-mail info@aomin.jp

原水爆禁止2018年世界大会in広島レポート

二〇一八年八月三日から六日の四日間、広島で行われた原水爆禁止二〇一八年世界大会に青森県民医連から医師・薬剤師・事務等八名が参加してきました。参加者の方から報告と感想をいただきましたので紹介します。

一日目は、新幹線にて約八時間の移動後夕食交流会で参加者同士の交流を深めました。二日目午前中は平和資料館を訪問し、当時の風景をそのまま収めた写真や、原爆が落ちる瞬間の人の流れなどを見るディスプレイなどを通して、当時の惨状を詳しく学ぶことができました。その後の平和公園巡りでは、気温三十六度を超える中、原爆被災者の慰霊碑、平和の鐘、原爆ドームなどガイドさんの解説を聞いて歴史を学びました。当時の被災者の方々はこの日のような炎天下の中、放射能のために水さえ飲めずに亡くなっていく方が多かったそうです。

特製のプラカードで平和を訴える村上昌さん

三日目の分科会では、岩国基地の調査行動に参加しました。基地を目視できるところまで行き、軍事力の強化に関する危険、横行する米軍の犯罪、騒音問題、もしアメリカが中国や北朝鮮などと戦争をすることになれば広島が最重要拠点として一番に被害を受ける可能性が高いという話を聞きました。その場合でもアメリカは基地を放棄すればそれほどの痛手にはなりません。調査行動に参加し、基地をなくすことや九条を守ることはとても重要だと思いました。

世界大会開会式・閉会式では、二千人を超える参加者が参列しました。開会式では世界各国の平和を願う方々の熱いメッセージを聞きました。皆さんの話を聞いていると、我々以上にこれほど懸命に平和を願う人たちがいるのだと嬉しく感じ、今までの自分たちの活動がこの人たちのためになっているのだと実感することができました。

今回の原水爆禁止世界大会に参加して、広島の皆さんの平和への思いを強く感じました。若者の世界大会への参加が多くみられ、原爆の怖さはきちんと次の世代に伝わっているのだと思います。この世界大会を通じて、我々のすべきことは、核のない世界を目指すこと、平和の重要性、そして何より、原爆の恐ろしさや悲惨さを途切れさせずに後世に伝えていくことが重要であると実感しました。

（ファルマ弘前薬局　薬剤師／村上　昌）

原水禁世界大会に参加した青森県代表団の皆さん

感想

あらゆる分野・視点を持っている方の発言を聞き、本当に核があらゆるものに影響を与え、限定的な範囲での利用でも間接的に派生し、人が住めない、作物が育たないなど一瞬ですべてのものがゼロに戻るどころかマイナスになるということ、核は絶対に利用すべきではないということを再認識しました。

核兵器禁止条約を拒否している国でも署名や批准を行うよう強く働きかけている等の話を聞き、自身の社保・平和活動の意識や関心の持ち方が変わるきっかけとなりました。（大野あけぼの薬局／端村由貴人）

今回、一番印象的だったのは、原爆投下後の写真や遺品です。焼け野原になった広島、皮膚が焼け焦げた人々、高熱で変形したガラス瓶、血が滲んだ服、どれも非常に生々しく、被爆者たちの苦痛や叫びが聞こえてくるような感じがしました。

戦後73年が経ち、祖父母でさえ戦争を知らない時代となりました。戦争を二度と繰り返さないために、戦争を知らない若い世代人たちに、広島の悲劇を伝えていかなければいけないと感じました。

（生協さくら病院地域医療連携室／奥口康生）

県連総会方針学習会 ～各法人での取り組み報告～

津軽保健生活協同組合

津軽保健生協の学習の様子です

津軽保健生協では、五月から各事業所で総会方針学習会を開始し、学習会参加者は八十五パーセント、職場討議を行った部署は七十一パーセントです。職場討議をすることで、これまで行ってきた社保平和の取り組みや自治体交渉など、日々の活動が確信につながったという感想の他、情勢の変化に対応して様々な団体と連携し、よりいっそう地域に目を向けた行動が必要だといった意見など、様々な感想が寄せられました。

（津軽保健生協教育部／長谷川聖）

青森保健生活協同組合

青森保健生協では五月に総会方針全体学習会を開催し、その後も各院所で学習会を重ね六百八名が学習を終了（七月末）、現在も追求しています。学習後の感想としては「憲法を守り抜くことが大事」「社会保障は人権であることを多くの人に知らせたい。」「住民が参加する地域医療づくりを実践する民医連だからこそ二つの柱を実践できるのだと実感した。」などが聞かれました。方針の理解が一層深まり、今後の実践の機会となりました。

（法人教育委員会委員長／橘千景）

各院所でも学習会を開催しました

八戸医療生活協同組合

長根所長、大いに語る

四月二十二日、卸センター会館で全職員大会が開催され、約百二十名の職員が参加しました。全日本民医連総会に参加した生協診療所通所リハビリテーション長根所長から総会方針についての報告を受け、総会方針について学習しました。

約三十分程度と少ない時間で、「『SDH』という言葉は初耳でしたが健康の社会的決定要因を頭に入れ、より患者様に寄り添っていきたい」等、改めて民医連の精神に共感した内容の感想が多く寄せられました。

無差別平等の医療福祉を実施していくために、職員の気持ちが盛り上がった大変有意義な機会となりました。

（八戸生協診療所／佐々木啓太）

文字通り（ほぼ）全職員が参加した全職員大会

株式会社ファルマ

学習会の様子

五月二十九日（火）と六月五日（火）に総会方針社内学習会を開催しました。

全日本民医連定期総会に参加した鈴木健仁課長補佐を講師に、学習会を行いました。ファルマで参加している行事の写真と、総会方針の内容を照らし合わせながらわかりやすく説明していただきました。なかなか読み解くのが難しい中で楽しく学習することができました。

（株式会社ファルマ／阿部由希子）

一般社団法人 あおもり健康企画

当法人では、三つの目標（一、総会方針を学び、私たちが目指すべきものを理解し日々の業務に生かす。二、医療・介護の二つの柱を理解し実践する。三、全職員が学習会に参加することを目指す。）を掲げ、総会方針学習月間に取り組みました。五月十八日青森、五月二十九日八戸で学習会を開催しました。講師は総会代議員が務め、おおむね全職員が参加し感想文を提出しました。

（あけぼの薬局八戸店／田中由美子）

社会福祉法人 花

五月十二日（土）法人大会を開催し職員三十三名が参加しました。全日本民医連総会へ参加した自立訓練（生活訓練）事業所サービス管理責任者田中英二さんより総会方針についての報告があり、学習しました。

限られた時間での学習となりましたが、高齢化社会に突入している中で、地域包括ケアシステム構築の先にある「地域共生社会」が津軽圏域でも少しでも早く実現できるよう、総会方針を羅針盤に民医連での役割や、活動の強化について意思統一できた学習会となりました。

（社会福祉法人花本部／山内聖晃）

社会福祉法人 虹

法人教育委員会主催で二〇一八年六月～七月の二ヶ月間で六回の学習会を開催しました。

第一回目は第四十三回総会に参加した委員長の報告に始まりDVD学習を行いました。

職員全員が参加できるように開催時間に変動を付けて参加を組織した結果、パート職員以上の学習会参加率は百パーセントでした。

戦争・核兵器・原発・貧困など、情勢や民医連の活動を知り、民医連職員として、誇りに思うと多くの職員から意見が挙がりました。

（社会福祉法人虹教育委員長／阿部雪子）

県連看護卒後研修

症例発表会

～民医連看護の三つの視点を振り返りながら～

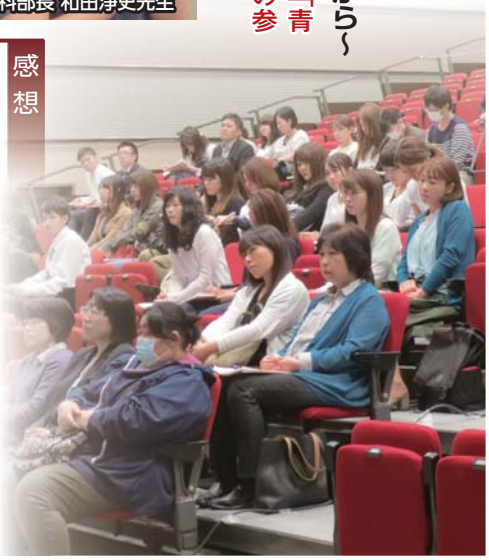
七月八日、青森県社会教育センターにて「青森民連看護卒後研修症例発表会」が百八名の参加で開催されました。

発表会は今年で三十一回目を迎え、民医連看護の視点や患者の要求どうなりたいのか、患者の立場に立つ視点、患者と一緒に考えるという共同の営みなどが発表されました。発表者は質問に対して動じることなく、答えていました。講評者も経験を重ね先輩としての成長が伝わる内容ばかりでした。

講師 川崎協同病院
外科部長 和田浄史先生

記念講演は川崎協同病院外科部長和田浄史先生を招いて患者に寄り添うこと「看護師に学んだ三つの視点と民医連の地域包括ケア」をテーマにご講演いただきました。実践で行われている患者中心の医療やチーム医療について話され、個人の希望からスタートし、患者に寄り添い、共に解決方法を探る【民医連の医療の奥深さ】を感じる事は、医療従事者全体に伝わるものでした。

参加者の感想も「日々の業務に追われ患者に寄り添うことが足りなかったように思った。」「入院中だからできないと決めつけるのではなく目の前にいる人が何を考え、何を求めているのか考えたQOLがあがる看護を実践していきたい」「医療行為だけが医療者の仕事ではなく患者さんに寄り添うケア行っていきたい」など、民医連看護の三つの視点を振り返る機会となり、今回の学びは明日からの看護へつながるものでした。（青森県民医連事務局／最上正一）



感想

私は卒後症例発表会に、三年前から看護小委員として参加しています。慣れない業務を行いながら、書き慣れない症例研究に取り組むというのは本当に大変です。先輩方に協力してもらいながら作成し、職場で発表の練習をしたり、何度も手直しが入ったりと、様々な苦労の末、発表した時の達成感は大きく、たくさんの学びを得ます。また五年目の職員に講評を依頼し、当日講評文を読んでもらうのですが、かつて発表した頃の自分と現在の自分を照らし合わせ、自身の成長を感じたり、様々な症例発表を聞いて刺激を受けたりと、講評者としても多くの学びを得られる場所です。

今年は埼玉協同病院から和田医師を招き「民医連看護とは」というテーマで講演をいただきました。和田医師の取り組みは、患者の思いに寄り添った行動力の素晴らしさを感じる内容で感動しました。今回も症例発表会に携わり、様々な症例や講演を聞くことは、自分の看護を振り返り看護観を育む場だと思いました。

（あおもり協立病院主任／小鹿奈々恵）

薬局活動交流集会

7月21日（土）、「2018年度薬局活動交流集会」が開催され、青森県民医連の病院薬局・保険調剤薬局の薬剤師および事務職員が総勢76名参加しました。

講師　青森保健生活協同組合
中部クリニック　竹本 歩 所長

今年度の集会では、「地域包括ケアシステム」について在宅医療の視点から学び、今後在宅における「チーム医療」で求められる薬剤師の役割について考えることを第一の目的として開催しました。初めに青森保健生活協同組合中部クリニック所長である竹本 歩先生を講師に迎え、「在宅医療における薬剤師に求めること」と題しご講演いただきました。竹本先生のお話から、処方箋に書かれた情報だけではなく、患者の表情、手の形、衣服、そして残薬から、患者の生活背景を想像して接することの大切さを学びました。また、医師や薬剤師のみならず事務職も含め全員で「チーム医療」を行っているということもお話され、参加者全員、チームワークの大切さを再認識する機会となりました。

次に例年の各法人による活動発表の他、新しい試みとして県連各委員会の紹介を行い、今後も薬局４法人がより良い医療活動を行うことを目的とした委員会活動を行うことを意思統一しました。

薬剤師と事務職員が交流を深める集会となりました。

後半は「新入職薬剤師・薬局事務歓迎会」を開催し、８名の新入職薬剤師と２名の薬局事務を迎え、大いに交流することが出来ました。

毎年開催している薬局活動交流集会は、県連内の薬剤師集団が集結し交流を深めるための大変貴重な場となっていることをあらためて確認することが出来ました。今集会で学習した内容や意見交流した内容を生かし、今後の活動をますます活発なものにしていきます。

（青森県民医連事務局　薬剤師委員会／山口理香子）

第11回

大間原発反対現地集会

平成三十年七月十五日（日）第十一回大間原発反対現地集会に参加しました。鹿児島、大阪、福島、函館からの参加者もありました。

今回の集会の中で、大間原発裁判について報告がありました。函館地裁での判決は二〇一八年三月十九日に言い渡され「原告らの請求をいずれも破棄する」というものでした。裁判官は「大間原発がまだ建設途中で原子力規制委員会が審査中である」と判断を破棄したそうです。

大間原発訴訟の会の原告団（千四十名）は「建設途中であるからこそ、安全に止めることが出来るのであって、原子力規制委員会まかせではない原発政治への司法の責任を果たせたはずです」と主張していました。今回の「不当判決」により、今後は札幌高裁で争われることになり、二〇一八年十二月十一日に行われる予定です。

集会の中で発言者から「大間町の七割がこの原発に反対しています。ただ、町にお金がないのを良いことにこの計画を持ち出して進めてくる政治に何も言えない。こんなことで大間町の豊富な資源、自然を危険にさらして良いわけがありません」との訴えがありました。

大間原発が出来れば、放射能汚染として海水や大気への影響は少なからずあります。大間マグロのブランド力も下がるのではないでしょうか。いつ故障するかわからない原発、福島第一原発の苦い経験も活かされない、放射能汚染も解決していない状態で、この政治は、日本の破滅を選択しているように感じます。私たちの大間町、青森県、日本にこれ以上不安な原発を増やしてはいけないし、人間と核、放射能とは共存出来ないことだと改めて感じることが出来ました。

（デイサービスセンター生協たむかいの家／坂本浩一）

全国より大間原発敷地隣接共有地に集結していました。三百三十人集まり大きな声で「原発反対・廃止」のアピール行動を行いました。

現地集会参加者は、大間町を歩き「大間を守れ、子供たちを守れ、マグロを守れ」と声をあげ２㎞歩きました。昨年よりも笑顔で玄関や窓際から手を振ってくれる子供や親など大間町民の姿が多く見られました。

青森県社保協総会

～憲法学習会を数多く経験して人権感覚を磨こう～

岡山県労働者学習協会 長久啓太事務局長

青森県社会保障推進協議会は７月28日に総会と学習会を開催し、約82名が参加しました。

学習会では岡山県労働者学習協会 長久啓太事務局長が「憲法25条を活かすとはどういうことか」と題して講演しました。講演の中で長久事務局長は人間の尊厳や栄光、希望や理想は一人一人の生活の中に託されているものでありだからこそ人間らしい生活を保障する憲法の重要性を強く訴える必要があると話されておりました。同時に社会保障が国民の権利として侵害されつつある情勢で憲法を国民の手に確保する継続的な闘いが必要だと強調していました。

総会では、５名の代議員より日頃の活動が報告され木村事務局長からは総括及び方針案・次期役員体制等が提起され拍手で採択されました。最後に本総会の特別決議が朗読され「社会保障、社会福祉は国の責任で」と声をあげ活動していく事を確認しました。

（青森民医連青森事務所・事務局次長／木村儀弘）

T6ENC（東北6県エッグナースサークル）

Story ～自分らしく～

八月十日～十一日山形県天童市の『天童ホテル』にて看護学生五十四名・職員四十五名・合計九十九名が参加し、『Story～自分らしく～』をテーマに第二十九回T6ENCが開催されました。

認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座では、認知症の人が体験している世界を手作りの画像で、外見からは想像もつかないような苦しみ、そして希望をもっていることを学びました。長野県看護大学　認定看護師教育課程吉澤理恵先生による「認知症に寄り添うエッグナース学習会～今の私たち、これからの私たちにできること～」では事例をもとにグループでまとめ、「認知症患者さんの気持ちや出来ている事を見つけるという事は、今まで掘り下げた事がなかったので良い体験になった。」など報告されました。

夕食交流会ではオレンジリングの贈呈式や伝言ゲームやジェスチャーゲームの他、多くのゲームを通して盛り上がり、参加者間の交流をしました。高齢者疑似体験セットを身に着けての、疑似体験ゲームも行いました。

（青森保健本部看対／須藤千夏）

みんなで楽しくグループワーク

参加者全員で記念撮影をしました

体験の様子

高校生一日医師体験

青森・弘前・八戸の病院・診療所で高校生一日医師体験を開催しました。今回の医師体験では合計44名と大勢の高校生に参加してもらうことができました。

青森民医連医師医学生課では各病院・診療所の協力を頂いて高校生の夏・冬・春休み期間中に「医師体験会」を開催しています。体験プログラムは病院見学、往診同行、心臓カテーテルなど各病院・診療所の医療活動をいかして組み、今夏は44名（弘前23・青森9・八戸12）の高校生を受け入れました。

参加した高校生からは「今回の体験をモチベーションにして、これからしっかり勉強して、医師になりたい」「往診を間近にみて、患者さんとのコミュニケーションの大切さを知ることができた」「医師、看護師だけでなくスタッフ全員の連携が地域の健康を支えていることがわかった」など好評をいただいております。

医学部入学前から継続的なつながり構築を目指し、次回の冬休みに開催する準備を進めていきたいと思います。

（県連弘前事務所事務局／立花典明）

医師から直接の説明を真剣に聞く皆さん

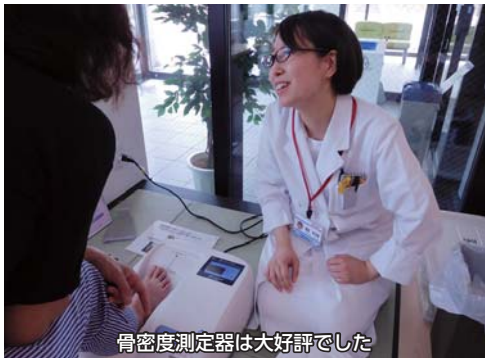
ファルマ弘前薬局 《第一回》健康教室

二〇一八年八月一日（水）第一回ファルマ弘前薬局健康教室を開催し、三十六名の方が参加されました。

今回の健康教室は、十時から十六時で開催され、全十一講演（ダイエット・食事と運動について、熱中症について、認知症についてなど）薬剤師自らが話したいテーマを選びました。無料健康チェックは、血圧・血管年齢測定、骨密度測定、物忘れチェック、体組成計を実施しました。参加者は、三十六名で大盛況でした。その他、減塩そうめんやお菓子やサプリなど試食販売を行いました。

開催前に薬局周辺地域にチラシ配布を行ったので、普段薬局を利用していない方もチラシを見てきてくださいました。参加された方からの感想には、「とても良かった。」「盛沢山の内容でしたが、分かりやすく講話してくれたのでよかった。」「また聞きたいです。」などありました。今後も、皆様の健康をサポートできるように、情報発信や健康教室の開催を、職員みんなでアイデアを出しながら、継続して開催していきたいです。

（ファルマ弘前薬局長／相馬　渉）


骨密度測定器は大好評でした

沖縄辺野古支援連帯行動に参加して

自然保護の大切さ「平和」について考える

参加者全員で集合写真を撮りました

六月二十日(水)～六月二十二日(金)「全日本民医連第四十三次辺野古支援連帯行動」に参加をしました。

辺野古では班ごとに船に乗り、海上調査を行いました。立ち入り禁止区域近くまで行き、区域内にいる多くの海上保安庁へ新基地建設反対を訴えましたが、聞き入れるわけもなく、すぐに警告を出されました。

班ごとに辺野古への想いをキャンプシュワブのフェンスに取り付けました

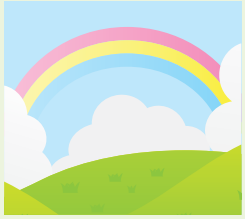
山・川・海が連動し、独特の生態系をもつ「辺野古・大浦湾」は、サンゴ礁に加えウミガメや絶滅危惧種のジュゴンなど、様々な生物が生息しています。人々はこの大自然から多くの恩恵を得るとともに様々な歴史・文化を育ててきました。人々の暮らしを見守ってきた命の海を破壊してしまったらどうなってしまうかは、わかりきったことです。自然を壊してまで戦争につながる基地をこれ以上作らせて良いのでしょうか。

沖縄の問題は日本の問題です。私たちは全力で反対していくとともに、歴史から学んだことを一人でも多くの人に伝えていくことが必要だと感じました。

これからも沖縄の歴史を学び、そして私たち地域の歴史も学び、二度と同じことを繰り返さないよう伝えていくこと、これが生きている者の責任だと私は思います。

（株式会社ファルマ事務／阿部由希子）

【全日本民医連第43期第1回評議員会】



8月18日(土)、19日(日)の二日間、全日本民医連第43期第1回評議員会が東京TKPガーデンシティ御茶ノ水で開催されました。

全国から84名の評議員と全日本民医連理事が参加し、評議員会方針案に対して61名の評議員が補足意見を述べ（文書発言含む）、最終日には第1章から第3章までの方針案が全会一致で採択されました。

今評議員会では、特別ゲストとして今年発足した韓国社会的医療機関連合会の代表、イム・ジョンハン医師と人道主義実践医師協議会のイ・ボラ医師が参加され、韓国社会医療機関連合会設立の意義について講演していただきました。

新自由主義的な医療政策を打ち破る課題は各国共通で、国際連帯の必要があり、「いのちの平等」へ日韓の人民的連帯が必要なことを確認することができました。

43期の実践が具体的にスタートするわけですが、翁長沖縄県前知事の意思をしっかりと引き継いで、辺野古新基地建設をストップさせる事、憲法9条を守り抜く事、特養あずみの里裁判で無罪を勝ち取る事等、憲法の未来、いのちと医療・介護の未来にとって非常に重要な半年間となることを認識し、すべての県連で団結して方針の実践をすすめていくことが今評議員会で確認されました。

（あおもり協立病院事務長／　今　淳一）

講師の瀬川主任

老後に必要な費用を知ろう！

～第1回社会保障学校開催～

7月14日、「老後に必要な費用を知ろう!」のテーマで、八戸医療生協職員瀬川祐介介護支援専門員を講師に、2018年度第1回社会保障学校を開催しました。八戸医療生協組合員やコープあおもり組合員、また一般の方も含め62名が参加しました。

介護保険料は納めるものの、実際に介護サービスを利用したらいくらかかるのか?という疑問に応える形で、具体的な事例を通して学習しました。講演後は六人一グループで「おしゃべりタイム」と称して、講演の感想や疑問、介護で困っている事など、お菓子をいただきながらざっくばらんにおしゃべりしました。

参加者からは「一番関心の高い問題をわかりやすく説明いただきました」「自分だけの収入では施設にも入れない状況が心配！」「『自助互助』という名の高齢者いじめに怒り！」等の意見が出されました。第二回社会保障学校は十月の開催を予定しています。

（八戸医療生活協同組合・組合員活動部長／宮沢　守）

参加者から質問が次々と出されました

沖縄県民大会

八月十日沖縄民医連主催の辺野古視察ツアーと十一日の県民大会に参加しました。

県民大会に参加した舛甚常務と岩本さん

今年新たに発覚した辺野古の問題点は①既存の建物が、米軍が設定する建造物の高さ制限を上回っていること②埋め立て地域の海底の地盤は地質調査が成立しないほど軟らかく脆弱であり、活断層の疑いもあること③環境アセスメントについて、米国防総省の専門家から「調査方法の適合性に疑問があり、ほとんど価値を持たない」という報告文書が示されていたこと、の大きく三点です。故・翁長知事が埋め立て承認の撤回を表明したことは当然のことだったと思います。このような状況だから辺野古の土砂投入の阻止と新基地建設反対を訴え、七万人もの人が県民大会に集まったのでしょう。県民集会に参加できたことは沖縄の民意を肌で感じる貴重な機会でした。

辺野古移転問題は戦中・戦後から沖縄が戦ってきた（運動を続けてきた）継続の中の一つであり、沖縄から基地がなくならない限り、この戦い（運動）は終わらないのだということです。沖縄は過去の戦い（運動）から、沖縄だけの叫びでは政府は動かないことを体感していることでしょう。この課題を持っている沖縄だけに解決を求めるのではなく、連帯・連携を深めることの重要性を改めて理解しました。（あけぼの薬局八戸店／岩本るり子）

雨が降る中、7万人もの人が県民集会に集まりました。

SDHの視点で事例を検討

～2018年度の県連制度教育が開始～

2018年度の県連制度教育が入職3年目職員研修を皮切りに開始されました。

入職3年目研修

7月は13日と25日に入職3年目研修が行なわれ、あわせて71名が参加。第43回全日本民医連総会の方針と日本国憲法を学び、参加者が持ち寄った各職場の「気になる事例」についてグループに分かれて検討していきました。参加者からは、格差が広がる中で「療養上で差別があってはならない」、「始めてSDHの視点で事例を捉えることができた」「憲法のこの条文がなかったらと考えたことでわかりやすく学ぶことができた」などの感想が出されました。

中期・中堅Ⅱ期研修のグループ発表の様子

7月31日には中期・中堅Ⅱ期研修が開催され、35名が参加しました。全日本民医連総会方針とあわせファシリテーションを講義とグループワークから学びました。

職場での議論が苦手と感じていたところだったので、今後ファシリテーションのやりかたを取り入れて生きたい」などの感想が出されていました。

今年度はこの二つの研修の他に、入職一年目研修、職場管理者研修、職場管理補佐研修を予定しています。

（青森県民医連事務局　教育委員会／那須　稔）

北海道・東北地協 介護事業交流集会

七月二十六日（木）、二十七日（金）弘前市百沢温泉郷アソベの森いわき荘で北海道・東北地協介護事業交流集会が開催されました。六道県で参加者は一日目百八名、二日目八十三名二日間で百十名の参加者がありました。

一日目の基調講演は、京都民医連事務局長松田貴弘氏による二〇一八年度介護報酬改定と民医連介護事業所の経営についてでした。松田氏は「国策で推進している看護小規模多機能型居宅介護事業所、定時巡回随時対応型訪問介護看護を経営に繁栄させ、地域のニーズに敏感になり、対応することが経営にプラスになる。そして、生活機能連携向上加算、口腔衛生管理加算、栄養改善加算をしっかりとること。」など、赤字慣れにならないことを強調しました。特別報告では介護安全について地協代表者井田智氏より説明があり、各県連より指定報告がありました。夕食交流会は津軽弁クイズやねぶた囃子や津軽三味線の生演奏で大盛り上がりでした。

二日目に行われた同業種によるグループワークでは日頃の課題や悩みについて交流し、解決へのヒントが生まれ充実したという感想が多くあげられました。今回の青森開催は終始盛況のもと終了しました。次回は宮城県での開催です。

（青森県民医連事務局／最上正一）

あおもり民医連 277 号　発行日 2018.9.15　発行部数 2,794 枚　AOMORI MIN-IREN

うちのメゴっこ vol.47

♥ name 葛西隼斗（かさいはやと）くん

♥ age 1歳8ヶ月

12 月 15 日生まれ 1 歳 8 ヶ月の男の子、みんなから「はっちゃん」「はやちゃん」って呼ばれるよ。バシュ（バス）にシー（タクシー）を見るのが大好き！ブブ（乗用車）とシー（タクシー）の違いだって分かるんだ！ブーブーなるブタのオモチャは大嫌い（>_<）　アイシュ（アイス）やバナナが大好きで、ママやパパにおねだりするんだぁ～。でも１つしかくれないからいっぱい涙が出ちゃうんだ（T＾T）　最近のマイブームは、ねぷたの太鼓！とーってもカッコ良かったから、毎日いろんなものを太鼓にして叩いてるんだ♪でもね、何でも叩いちゃうからママに怒られちゃうんだ（笑）　目が大きくて、まつ毛が長いからパパ似って言われるけど、パパみたいにおヒゲが生えるのは嫌だなぁ～だってチクチクするんだもん。こんな僕だけどヨロシクね～　　（ファルマ弘前薬局／葛西祐一）

いわさきちひろ生誕１００年　前進座公演

ちひろ ～私、絵と結婚するの～

■公演会場
リンクモア平安閣市民ホール
（JR青森駅前）

■公 演 日
11月27日(火)　昼公演14:00
夜公演18:30

■入 場 料
前売券 4,800円　当日券 5,000円

私の三つ星★★★

オススメ

日本一のニンニクを試すなら！「田子ガーリックセンター」

青森県最南端の田子町には名産品があります。大きくて真っ白で香り豊かな田子にんにくです。八戸市からは車で40分～1時間程かかります。

麺に練り込まれたにんにくの風味が良いにんにくラーメン、飲んだ瞬間コーラ！そして後味がにんにくの“ジャッツ！タッコーラ”、ビールのおともに良さそうなガーリックプレッツェル等、こんなにいっぱいでどれにしよう♪と思うような、田子にんにくを使ったお土産が『田子ガーリックセンター』で買えます。ここでは新・ご当地グルメの“田子ガーリックステーキごはん”を食べる事も出来ます。また、10月第１週には『にんにくとべごまつり』が開催されます。豪快な田子牛の丸焼きと田子にんにくを目当てに近隣に住む外国人が多く来ます。八戸市にお越しの際には、少し足をのばして楽しんでみてはいかがでしょうか。

（あけぼの薬局八戸店・事務／田中由美子）

機関紙編集部まで
info@aomin.jp
投稿募集!!

職員の皆さんのオススメする本・映画音楽・スポーツ・趣味なんでも紹介していきたいと思います。

8月 第7回理事会報告

2018年8月　第54期

全日本民医連第５回理事会報告
>> 決済承認事項
　2019卒薬剤師奨学生の法人配置推薦（案）
　2018年度事務職員基礎研修開催要項（案）
　職場管理者・職場管理補佐研修（第１報）
>> 会務報告／各委員会・医師委員会報告
　特養「あずみの里」無罪を勝ち取るニュース
　全日本・地協各部門会議・研修
　医師委員会報告／既卒医師対策報告
>> 協議事項
　当面の憲法課題について～3000万人署名に引き続き取り組もう～
　社会保障守る秋の２つの共同行動への参加の呼びかけ（第１報）

主な 今後のSCHEDULE

9/9-10 全日本民医連協同組織活動交流集会in神奈川
9/15 経営セミナー
9/22 医師待遇学習会
9/22 薬剤師中期研修
9/23 あおもり協立病院・協立クリニックまつり
9/27 県連中期中堅Ⅲ期研修
10/6-7 全国青年ジャンボリー in松島
10/13 看護・介護ウェーブ
10/27-28 地協薬剤師・薬局事務交流集会in岩手